
大人のための異文童話集5 白雪姫と魔法の鏡

天野久遠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大人のための異文童話集5 白雪姫と魔法の鏡

【Nコード】

N9457L

【作者名】

天野久遠

【あらすじ】

有名な白雪姫のお話。それはホントに少女のお話だったのでしょ
うか？私には何だか、魔法の鏡の切ない恋物語だったように思えて
ならないのです。

それはそれは遠い昔のお話。

私とその少女の姿を見たのは、もう、記憶の奥底ほど…。それは遠い遠い昔のことかも知れません。

そう、あれは…

世界中で一番美しい女性を映し出すようと、女王から言われた時のことでした。

私が映し出したある少女は、眩いばかりの光を放ったのです。

その時からこの心は、“白雪姫”と呼ばれるその少女に奪われしまったのでした。

女王に彼女の姿を映すように言われる度、私の胸の奥は幾度となくときめきました。

しかし今では…

そんな素敵な彼女の姿も忘れ、声も忘れてしまったようです。

毎日を期待と絶望で繋ぎつつも、決して彼女の邪魔にはならぬようにと。

この暗い部屋の片隅で、唯々私の出番を待っていたのです。いつに、いつかにと…ただひたすらに。

もう無駄とを感じる気持ちを騙しては、騙す気持ちにまた騙されていく。

それでもそんな自分が幸せだったのでしょう。

そしていつしか置物でしかなくなっていた私です。

それでも…

もう一度と叶わぬ願い、ああ、彼女の姿を見たい、声を聞きたい。そのためだけに私は、だだ薄暗い部屋の隅の置物でしかない毎日を過ごし持つのです。

そう、今ではただの壊れた鏡の私です。

私を壊してしまった女王が去り、もう捨てられてしまっただけの運命の私。

そんな壊れて投げやられていた私のことを、彼女が見つ付けてくれたのです。

それは白雪姫が王子のお城へ引越す日のこと。

王子は白雪姫に新しい鏡を買えばいいからと、壊れて汚れた私などを捨てるように言ったのでした。

でも白雪姫は…

「ごめんなさい、これだけは捨てられないの。」

「だってこの鏡だけが、私を世界で一番きれいと言ってくれたのですから。」

「いままでも、そして年老いても、きっとこの鏡だけが私のことを…」

そうやって白雪姫は壊れた鏡の私を、このお城へと持って来てくれたのでした。

そしていつまでも、大切にしてくれるはずだと思っていたのです。

しかし白雪姫には…

私の言葉はもう必要ないものになったのでしよう。

若くて素敵な王子がいつも傍にいて、女王としてのお仕事も楽しいものようだったから。

そしてときは流れ、私はこうしてこの部屋の隅へ置き忘れられてしまったのです。

私は美しき女性を映し出す魔法の鏡。

できるなら以前のように、世界中で一番美しい女性を映し出すように尋ねられたい。

そしたら今でも私は、白雪姫の姿を映し出すことでしょう。

だからお願い、白雪姫。

早く私を毒リンゴの眠りから呼び醒ましておくれ。

(後書き)

BGMにはオリジナルではなく、エリック・クラプトンがカバーしている方の“OLD LOVE”がいいですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9457/>

大人のための異文童話集5 白雪姫と魔法の鏡

2010年10月14日22時51分発行